



渋谷区立鉢山中学校 学校だより

挑戦(Challenge) 創造(Create) 対話(Communicate)

校長 小幡 政明

ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば

ただありあけの 月ぞ残れる

ごとくだいじのきだいじん
後徳大寺左大臣

ホトトギスは、夏鳥です。5月中旬～下旬ごろに日本に渡来します。都会でも、鳴き声を聞くことができるそうです。鳴き声は「特許許可局（トッキョキョカキョク）と聞こえると言われていました。

5月になりました。季節が春から夏へと移り変わっていきます。鳥のさえずりも春告げ鳥といわれるウグイスの「ホーホケキョ」から、ホトトギスの「トッキョキョカキョク」へ変わっていきます。

No fun no gain

楽しまなければ、得るものなし。

英語の慣用句です。何か目標を達成するには、その過程を楽しまなければ、達成できないという意味です。

もともとは、

No pain no gain

痛みなくして、得るものなし。

でした。苦勞をしなければ、何かを成し遂げることはできないという戒めの言葉として用いられてきました。いまでも辞書を引くとこの慣用句が出てきます。

しかし、最近では、何か目標を達成するには、苦勞するより、楽しんだ方が目標を達成しやすいということがわかってきました。

皆さんも、スポーツ選手が、優勝が掛かった大一番の前に、インタビューに答えて「最高の場面を楽しみたいと思います。」などと答えているのを聞いたことがあるのではないのでしょうか。

目標達成するためには、我慢しなければならなかったり、苦手なことを行わなければならない状況になったりします。しかし、それらを「いやだ。いやだ。」と思いながら行っても、上手くいかないことが多いようです。また、「～ができない。」「～がなくなった。」と考えがちですが、「～ができる。」「～をやってみよう。」とできることに目を向けて、工夫をしながら取り組んでみましょう。苦しい状況を気持ちの持ちかたで楽しむことができれば、きっと目標を達成することができます。そうすることで、自分自身の成長を自ら感じることができるはずです。

No fun no gain

この言葉を忘れずに、取り組んでいきましょう。

もちろん、学校は一つの集団であり、社会です。自分一人だけが楽しくても、周りの皆が嫌な思いをしては、意味がありません。

自分も楽しみ、皆も一緒に楽しむためにはどうすればよいか考えていきましょう。

保護者・地域の皆様へ

アツという間に1月が経ちました。1年生も徐々に中学校生活に慣れてきたようです。すべての生徒が、様々な力を発揮し、充実した学校生活を送れるように最大限の努力をしてまいります。

ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

4月のChallenge

セーフティ教室 15日(土)



ファミリーeルール事務局の斎藤文孝さんにご講演いただきました。今年度のテーマは、「スマホのアプリケーションの利用規約について」です。多くの人が利用規約を読まないで、「承認」をしています。しかし、その結果とんでもないトラブルに見舞われることが多いようです。そのことを利用した詐欺行為も横行しているようです。

午後の保護者会では、「ネット・スマホのトラブル最新事情と子どもを守るためのファミリーeルール講座」もご講演いただきました。ぜひ、家族間で共通理解のもと安全・安心な利用を心掛けていきましょう。



ハチラボ WEEK 18日(火)～21日(金)



鉢山中学校は、渋谷区理数教育重点校です。こども科学センターハチラボと様々に連携を図っています。今年度の連携第一弾として、各学年が放課後ハチラボに行き、「極める！マグネット展！」を参観しました。



I組 校外学習 21日(金)

I組最初の校外学習。災害時の避難場所確認の意味もあり、代々木公園まで、徒歩で移動しました。当日は、晴天で気温も上昇し、代々木公園までの45分間程の行程はなかなか大変でした。

代々木公園で、一休みした後は、元気が回復し、皆、公園内を走り回って遊びました。



渋谷区一斉清掃の日 28日(金)

毎年4月28日は、渋谷区一斉清掃の日です。これは、「きれいなまち渋谷をみんなで作る条例」の第7条に「区民等及び事業者の環境美化意識の向上を図り、日常的な実践活動を行うため、毎年、四月二十八日を「渋谷区一斉清掃の日」と定める。」と規定されています。

この日は、各家庭や渋谷にある企業などが、渋谷の街をきれいにするために一斉に清掃をする日と定められています。

鉢山中学校では、毎年、全校生徒で校庭の草むしりや学校前の歩道の清掃を行っています。



プログラミングを活用した理科授業

28日(金)

3年生の理科では、「塩化銅水溶液の電気分解」について勉強しています。その際に、株式会社MIXIに依頼して開発してもらった「原子・分子アプリケーション」を活用しています。タブレット上で分子を原子に分けたり、イオン化したり手作業でシミュレートすることができ、考えを深めることができます。電子が受け渡され、塩素や銅に分解される仕組みについて、手作業を通して、納得するまで考えることができました。

